

TOPICS

香川大生のアイデアで希少糖のお菓子「スイーツコンツェルト」が誕生 4/19

希少糖の一種であるD-アルロースの純品「アストレア」が商品化され、より多くの人に希少糖を知ってもらおうと、「香川大学」の学生と「菓子工房ルーヴ」が協働でお菓子を開発しました。

香川大学生「KaNoHaProject」のメンバー※は、この「アストレア」の商品開発と希少糖の市場浸透に貢献することを目的に「菓子工房ルーヴ」へ協働実施の提案をしました。両者協働による商品開発は初の試みであり、お菓子作りのプロであるパティシエ達と共に、その特徴を生かした独創的なアイデアを出し

合い、香川の県産素材の魅力と希少糖のすっきりとした甘みのハーモニーが楽しめるお菓子「スイーツコンツェルト」が誕生しました。パッケージにもこだわり、学問をイメージさせるアンティークな洋書型で、「アストレア」を使用したプチフィナンシェ、苺のコンフィチュール、サブレ、「アストレア」の粉末の詰め合わせとなっています。香川大学生協と、高松市にあるグランメゾン・ルーヴにて販売中です。

※KaNoHaProjectとは

学生の目線から香川の産物や県産品の魅力を発信する香川大学の学生プロジェクト。



お菓子の試作&試食会



完成した希少糖スイーツの学長報告

瀬戸内国際芸術祭 2022 5/15

瀬戸内国際芸術祭2022では、香川大学教育学部の若井教授が代表となる「瀬戸内の伝統生活文化・芸術発信プロジェクト」が参加しました。四国村の農村歌舞伎舞台にて、瀬戸内の伝統的な生活・文化・芸術を地域の人たちと再生・共有し発信しました。

第1部では讃岐民謡保存会らによる瀬戸内仕事歌のパフォーマンスがありました。瀬戸内地域に暮らす人たちの生活から生まれた音楽「仕事歌」。今や消えつつあるその限界芸術とともに、地域の人たちとその仕事、郷土の風景を現代に甦らせ、現代人として先人たちの

郷土への思いを伝えました。

第2部では四国民話オペラが公演されました。香川県では58年前、芸術家・文化人の先人たちが集結し「四国の民謡・民話による新音楽の創造」を目的として四国初のオペラ作品「二人奥方」が誕生しました。「きつねがなぜ四国にいないのか？」を裏づけるエピソードとなる殿様夫婦を描いた痛恨な民話オペラ。この作品に新しい解釈、現代人に分かりやすい演出、編曲を行い、学生や地域の芸術家たちと公演することで、瀬戸内地方の音楽芸術の魅力を発信しました。



仕事歌「伊吹島舟唄」(船頭を演じているのは香大生)



オペラ「二人奥方」劇中の一幕

Let's think together

equal pay dayを知っていますか?
=女性が男性と同じ賃金を手にする日
2022年は5月1日です

平均賃金が男性より低い女性は、男性の年取分を手にするには、1年より何日も余計に働く必要があります。女性が余計に働いてようやく同額を手にする日、それが「イコール・ペイ・デイ」です。日本では、男性が2021年の1年間で得た賃金と同額を女性が手にするためには1年では足りず、2022年の5月1日まで4カ月と1日余計に働かなくてはならないのです。

日本は男女賃金格差大国。OECDワースト2位(36位韓国・35位日本)

OECD2019 データ <https://data.oecd.org/> 資料出典：日本BPW連合会 <http://www.bpw-japan.jp>



香川大学

KADAIGEST 2022 5



①卒業・修了を祝う会の様子1 今年も京都でした! ②新歓祭の様子(研究会のブース) ③卒業・修了を祝う会の様子2 ④教授の金融基礎講座の様子

香川大学 金融・証券研究会

香川大学金融・証券研究会は、研究活動を通して、創造的で人間性豊かな専門職業人、研究者を養成し、地域社会をリードするとともに、共生社会の実現に貢献することを目的としています。

2022年4月、民法改正により成人年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これにより、親権者、保護者の同意なしで、クレジットカードを作成したり金融機関などからローンを組んだりすることが可能です。それを受け、高校で金融教育が必修となり「お金」に関する授業が始まりました。資産運用への興味が高まっている昨今、大学生でも受けたいような授業内容だそうです。

私たち研究会はそれに先駆け、顧問の大

学院教授による基礎からの金融講義を実施しています。これは、株式相場や債券相場、金利・為替相場等についてですが、決して「投資」を勧めているわけではなく相場を知るためであり、部員同士の勉強会等も行っています。

研究会の活動は月2回程度、土曜日の夜に実施しています。コロナの影響からこの2年間はZOOMを使った活動で、会員のグループラインでも都度連絡を取りあっています。今後、コロナ対策を徹底し、対面での活動が再開できるように準備しております。

学生はもちろんOBも参加していますので、興味のある方は是非お問い合わせ下さい。

活動場所・オリーブスクエア
(コロナ禍の影響でこの2年間はリモートで活動)

活動時間・月2回
土曜日 20:00 ~ 21:30
部員数・18名(OB会員は約40名)
Instagram・finance_kagawa_university
連絡先・s21s308@kagawa-u.ac.jp
・090-2898-8011



今年4月に
会長に就任しました

大学院
地域マネジメント
研究科2年
小笠原 大知
私立実践学園高等学校
出身

VOICE こどもらぼ（佛生山らぼプロジェクト）大人とこどもの交流の場を作り地域の活性化に貢献する



スライム作りで共同制作♪

こどもと大人の地域活動

2020年10月に始動した、私たち佛生山らぼプロジェクトは、仏生山地区の活性化を目的としたさまざまな活動を行っています。その活動の中の一つである「こどもらぼ」は、地域のこどもたちを対象としたワークショップです。これまで地域住民の皆さんと接してきて「大人とこどもの交流の機会が少ない」というご意見をうかがうことができました。このような地域課題を解決するための一助になりたいと思い、私たちのプロジェクトでは、2021年の4月からこどもらぼを始めました。私たちはこどもらぼを通して、地域の将来を担うこどもたちの郷土愛を育みながら、こどもと大人が協働して地域活動を行う「場づくり」を目指しています。

こどもらぼの活動内容として、2021年度は主に2つの大きなイベントを企画しました。1つ目は畑作りです。「野菜と一緒に郷土愛を育む」をコンセプトに、参加者のこどもたちと一緒に大根やほうれん草の栽培に挑戦しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、現場での活動がうまくいか

ないこともありましたが、何とか収穫することができました。2つ目はベンチ作りです。以前に仏生山地区で行われていたベンチ作りを復活させようということで、ベンチを自分たちの手で組み立てるイベントを開催しました。完成したベンチを仏生山のいろんな場所に設置することで、地域の憩いの場になり、こどもと大人との交流の場にもなることを期待しています。

そのような地域活動の中で一番やりがいを感じる瞬間は、自分たちが企画したイベントで、皆さんに喜んでいただけた時です。こどもらぼの活動は、毎回私たちが企画、準備、運営などを行っています。そうして実際にイベントに参加してくれたこどもたちの笑顔を見たり、楽しんでいる雰囲気を感じたりすることで、企画して良かったと実感しました。この気持ちを感じるたびに、人と関わることの面白さや、地域活動の楽しさを知ることができました。

私たちの活動は地域にとって潤滑油のような役割を果たしており、世代間の交流を生

み出していると考えています。これから先もこの活動を継続するため、私たち佛生山らぼプロジェクトは、地域活動に興味を持っている人、こどもと関わりたい人、学生生活で何か新しいことに挑戦したい人をどんどん巻き込んで活動していきたいと思っています！

このプロジェクトで得られる経験は、メンバー自身のスキルアップや心の成長にも繋がっています。私たちと一緒に仏生山を盛り上げてみませんか？

経済学部4年 北川 菜々子
岡山県立矢掛高等学校出身



畑で子供たちと絵日記を書いています。仏生山愛も育ちますように♡



手書きの手順書で説明を行いました。



ベンチの試作をした写真です。初めて使う器具に戸惑いつつ、一脚完成しました。しかしガタガタと…。その後も試行錯誤をし、立派なベンチが完成しました。



インパクトドライバーと一緒にビス打ちをしました。



週1回のミーティングの様子です。意見を出し合って活動に反映させていきます。



隣で優しく見守っています



完成したベンチと参加者で喜びをかみしめて記念撮影を行いました。



仏生山小学校で授業をさせて頂いた時の写真です。仏生山クイズをしたり、町の好きなところについて意見交換をしたりすることで、仏生山の良さを再確認することが出来ました。(前列右から2番目が北川)